

秦仁昌氏：中國蕨類之研究 四〔靜生生物調査所彙報第二卷第二號〕 R. C. CHING: Studies of Chinese Ferns—IV [Bulletin of the Fan Memorial Institute of Biology, Vol. ii, no. 3 (1930)]

秦氏の第四報は“*Polypodium ellipticum* THUNBERG and species confounded with it.”と題し、支那産のイハヒトデ及びその近縁種、即ち *Selliguea* イハヒトデ亞屬に就ての研究である。氏によれば本亞屬は支那を中心とする一群で、一方では日本及びフィリピンを含む近接の諸島に分布し、他方には東京、シッキムヒマラヤに達する支那分子であると云ふ。

本編に記載された種類は次の八種で、八枚の寫眞版があり、検索表及び支那文解説のあることは前編と同様である。

1. *Polypodium Morsei* CHING, sp. nov.
2. *P. Faurianum* (CHRIST) NAKAI
3. *P. longisorum* (BAKER) C. CHR.
4. *P. mediosorum* CHING, nom. nov.
5. *P. flexiobum* CHRIST  
var. *undulato-crenatum* (C. CHR.) CHING, comb. nov.
6. *P. ellipticum* THUNB.  
var. *furcans* (TUTCHER) CHING, comb. nov.
7. *P. latilobum* CHING, sp. nov.
8. *P. flavescens* CHING, sp. nov.

第二の *P. Faurianum* NAKAI は *Selliguea coraiensis* CHRIST を *Polypodium* に移したので、FAURIE 氏が濟州島で採取した no. 68 が type であるが、これはまさに *P. ellipticum* THUNB. イハヒトデである。秦氏が本種の葉は二形をなすこと、通常五對の側羽片を有すること、乾燥すれば稍黒くなること、脈序の殆んど見へぬことを注意してゐる點や又寫眞版よりみるも氏がイハヒトデをさしてゐることは明である。

第六の *P. ellipticum* THUNB. はその寫眞版を見ればオホイハヒトデであることがわかる。オホイハヒトデは全體大形で、側羽片は通常十箇ばかりあり、脈序ははつきり見へ、葉の二形をなさぬ點などでイハヒトデとは明に區別すべき種である。しかしオホイハヒトデを *Polypodium pothifolium* METT. にあてることに就ては筆者は多少の疑問を持つ。 *P. ellipticum* と *P. pothifolium* を混同するのは六、七十年以來のことで秦氏も亦この一人であるが、 *P. Faurianum* を採用する所をみれば氏は THUNBERG 氏の *P. ellipticum* の何たるかを知らぬのであらう。秦氏の var. *furcans* にあたるものは、田代氏の沖繩採集中にもあつた。(田川基二)